

産衛だより

平成 21 年度日本産業衛生学会総会議事録

日 時：平成 21 年 5 月 20 日（水）10：00～12：00

場 所：福岡国際会議場 メインホール

1. 開会：大前和幸総務担当理事の司会で開催した。
2. 理事長挨拶：清水英佑理事長が挨拶を述べた。
3. 企画運営委員長挨拶：田中勇武企画運営委員長が挨拶を述べた。
4. 物故会員の報告：大前総務担当理事より、昨年の総会以降に近藤壽郎、伊藤岩美、岩間章介、宮田佳彦、阿部克之、鈴木 渉、小澤勝美（名誉）、滝沢 進（名誉）、井上昌彦、福本 龍、奥谷博俊（名誉）、内山敬司（名誉）、榊田伸二、影山 浩、以上 14 名の会員の方々のご逝去された報告があり、ご冥福を祈り黙祷を捧げた。
5. 議長選出：田中勇武企画運営委員長を議長に選出し、議長が伊規須英輝代議員（産業医大）を副議長に推薦し議長席についた。以下、議長により議事が進められた。
6. 議事録署名人の指名：議長の指名により議事録署名人には、八谷百合子代議員（産業医大）、石原逸子代議員（産業医大）が指名された。
7. 総会の成立：大久保靖司総務担当理事より、代議員数 641 名へ E メールおよび葉書を用いて通知を行い、486 名から回答を受けた。出席者 149 名、委任状 284 名、合計 433 名で、定款第 29 条により本日の総会は成立していると報告された承された。

議 事

第 1 号議案 機関誌の発行について

川上憲人編集委員長より、産業衛生学雑誌 50 巻 1～6 号の刊行はほぼ順調で 17 編が掲載された。Journal of Occupational Health (JOH) もほぼ順調で 69 編（第一著者国内 32 編、国外 37 編）が掲載された。JOH の投稿規程を国際標準的なものに変更したこと、全国協議会を利用して会員との対話を図る時間を設けたこと、科学研究費として平成 20 年度は 600 万円が交付され発行を支えたことが主な活動であった。

JOH は年間投稿論文数が 260 編を超えているため、代議員をはじめ会員の方々には査読を積極的に受けてほしいこと、和文誌への投稿が少ないので活性化に協力をお願いしたいとの報告があった。

質問や異議はなく、第 1 号議案は原案通り可決された。

第 2 号議案 平成 20 年度事業報告について

大久保靖司総務担当理事より、資料を基に概要の説明がなされた。

総会通知数（代議員）を 641 名とする修正があった。また、石綿問題検討委員会報告が会期中に行われるとの報告があった。

質問や異議はなく、第 2 号議案は原案通り可決された。

第 3 号議案 平成 20 年度決算報告案について

圓藤吟史財務担当理事より、平成 20 年度収支決算報告および地方会・部会・委員会の収支計算総括表、基金会計について資料を基に報告された。

決算報告に対して佐藤章夫監事より、大本美彌子監事と平成 21 年 4 月 2 日に杉本賢司公認会計士立会いのもとに監査を行った結果、収支決算は適正であったと認められ、理事の職務執行も適正かつ効率的であったとの報告があった。

また、一般会員と代議員では権利・義務に差があるので、会費等で差をつけることを検討してほしいとの意見を述べられた。

質問や異議はなく、第 3 号議案は原案通り可決された。

第 4 号議案 平成 21 年度事業計画案について

大久保総務担当理事より、平成 21 年度事業計画案について資料を基に説明があった。

今年度は特に公益法人制度の改革に従って、定款等を見直して、移行手続きを進めることになる、ホームページでもご報告するとの報告があった。

小木和孝代議員より、計画の No.14「アジア地域を中心とした産業保健活動への協力」についての内容および活動の具体的な事項について質問があった。大久保総務担当理事より、今のところ具体的な活動内容は決まっていないので会員から連絡があれば検討していきたい、支援の方も連絡があれば検討していくとの回答がなされた。

その他、質問や異議はなく、第 4 号議案は原案通り可決された。

第 5 号議案 平成 21 年度予算案について

圓藤財務担当理事より平成 21 年度予算案について資料を基に提案された。

五十嵐千代代議員より、給与予算等について質問があった。圓藤財務担当理事より、事務局は従来 1.5 人体制の予算を計上してきたが、部会事務を外部委託で行うようになった関係で、1.3 人体制の予算を計上しているとの回答があった。

その他、質問や異議はなく、第 5 号議案は原案通り可決された。

第 6 号議案 第 83 回日本産業衛生学会開催準備状況について

日下幸則企画運営委員長より、第 83 回日本産業衛生学会は平成 22 年 5 月 26～28 日、特別研修会は 29 日に福井県国際交流会館で、メインテーマは「21 世紀の新しい産業保健—リスク管理から疾病予防まで—」で行うとの説明と挨拶があった。

質問や異議はなく、第 6 号議案は原案通り可決された。

第 7 号議案 第 84 回日本産業衛生学会開催準備状況について

大久保総務担当理事より、平成 23 年度開催の第 84 回日本産業衛生学会は関東地方会担当で開催することが理事会では承認されているとの説明があった。

質問や異議はなく、第 7 号議案は原案通り可決された。

第 8 号議案 第 19 回産業医・産業看護全国協議会開催地について

広瀬俊雄企画運営委員長より、秋田市で平成 21 年 11 月 5

日から8日、メインテーマは「職場における健康力と産業保健」として開催するとの説明と挨拶があった。

質問や異議はなく、第8号議案は原案通り可決された。

第9号議案 第20回産業医・産業看護全国協議会開催地について

大久保総務担当理事より、第20回産業医・産業看護全国協議会開催地は北海道地方会担当で開催することが理事会では承認されているとの説明があった。

質問や異議はなく、第9号議案は原案通り可決された。

第10号議案 第19回産業衛生技術部会大会準備状況について

加藤隆康産業衛生技術部会副会長より、第19回は平成21年12月12日東京早稲田大学で心理学系の方も増えた関係で主に「メンタルヘルス」「リスクコミュニケーション」を中心に開催する予定で、細部についてはホームページ等でお知らせするとの説明があった。

質問や異議はなく、第10号議案は原案通り可決された。

第11号議案 名誉会員の推薦について

大久保総務担当理事より、名誉会員に斎藤和雄先生、角田文男先生、原 一郎先生を推薦するとの説明があった。また、学会賞は該当者なし、奨励賞は大神 明先生、上島通浩先生、五十嵐千代先生、功労賞は菊池誠作先生、鈴木秀吉先生に授与することが理事会で決定しているとの報告があった。

質問や異議はなく、第11号議案は原案通り可決された。

第12号議案 許容濃度等に関する提案について

佐藤 洋委員長より、昨年度提案した物質等の暫定期間が終了し、下記の提案どおり特に意見がなかったので本表に掲載することになるとの説明があり、本年度の新提案・改訂案が示された。

(昨年度の提案)

チウラム 許容濃度 0.1 mg/m³

パーフルオロオクタン酸 (PFOA)

許容濃度 0.005 mg/m³

マンガン及びマンガン化合物(有機マンガン化合物は除く)

許容濃度 0.2 mg/m³

フェノール(生物学的許容値)

尿中総フェノール濃度* 250 mg/g クレアチニン

(*:遊離体, グルクロン酸抱合体, 硫酸抱合体)

試料採集時期 作業終了時

エチレングリコールモノブチルエーテル (BE) とエチレ

ングリコールモノブチルエーテルアセテート (BEA)

(生物学的許容値)

尿中総ブトキシ酢酸濃度 200 mg/g クレアチニン

(BE, BEA に共通)

試料採集時期 作業終了時

テトラヒドロフラン(生物学的許容値)

尿中テトラヒドロフラン濃度 2 mg/l

試料採集時期 作業終了時

クロロベンゼン(生物学的許容値)

<2007年度の暫定からの変更>

尿中4クロロカテコール(加水分解後)

120 mg/g クレアチニン

試料採集時期 作業終了時
(許容濃度等の提案)

オルトフタロジニトリル

許容濃度 0.01 mg/m³ 経皮吸収あり

ニッケル化合物(ニッケルカルボニルは除く)

製錬粉塵

過剰発がん生涯リスクレベル

10⁻³ 10 μg/m³ (Niとして)

10⁻⁴ 1 μg/m³ (Niとして)

製錬粉塵以外

水溶性ニッケル化合物 0.01 mg/m³ (Niとして)

不溶性ニッケル化合物 0.1 mg/m³ (Niとして)

エチレングリコールモノメチルエーテル

許容濃度 0.1 ppm 経皮吸収あり

エチレングリコールモノメチルエーテルアセテート

許容濃度 0.1 ppm 経皮吸収あり

(検討中の物質等)

全身振動

鉛

感作性物質分類に関する検討

生殖毒性分類に関する検討

以上の提案に質問や異議はなく、第12号議案は原案通り可決された。

第13号議案 役員の選任について

大久保中央選挙管理委員長より、選挙結果に基づき役員候補者に関して総会で承認を求める説明があった。理事長：大前和幸、理事：岸 玲子・清田典宏・広瀬俊雄・本橋 豊・相澤好治・五十嵐千代・大久保靖司・加地正伸・加藤 元・川上憲人・諏訪園靖・角田 透・柳澤裕之・日下幸則・高橋英尚・小林章雄・斉藤政彦・吉田 勉・大脇多美代・岡田章・廣部一彦・山田誠二・萩野景規・原田規章・實成文彦・昇淳一郎・東 敏昭・堀江正知・住徳松子、監事：圓藤吟史・中明賢二、以上、総会でご承認いただきたいとの提案があった。

小林廉毅代議員より、地方会によって選挙方法(氏名の連記等)が違うので検討してほしいとの提案があった。大久保中央選挙管理委員長より法人制度の改革とも係わるので、地方会とも相談の上検討していくとの回答があった。

その他、質問や異議はなく、第13号議案は原案通り可決された。

第14号議案 昨年の総会の質問について(厚生労働大臣宛へ提出した要望書の件)

清水英佑理事長より、「就業者を対象とする特定健康診査及び特定保健指導の実施に関する要望書」の作成を巡っての事実関係を検討するため理事会内に検討ワーキンググループ(WG)を立ち上げ、5回にわたりWGで事実関係を検討し報告書をいただいたとの説明があり、岡田 章 WG委員長に詳細な報告を求めた。岡田 WG委員長により、一連の混乱の経緯を調査し事実関係の調査究明、再発防止の方策、今後の検討課題、学会のあり方等について検討した結果が報告された。

大久保利見代議員より、本来委員会は理事会からの諮問に

よって特定の事案について検討し、報告するのが役割である。委員会独自の意見があるとすれば別に研究会を作って見解を表明するべきである、との意見があった。

甲田茂樹代議員（労働衛生関連法制度検討委員会委員長）より、報告書についての位置づけの質問があり、岡田 WG 委員長から、理事長への報告であるとの回答があった。

矢野栄二代議員より、相澤好治理事の修正案に厚生労働省からの圧力がなかったとの判断はどういうことかと質問があった。岡田 WG 委員長から、ただ軽い気持ちで応じてしまっただけで他意はないと WG は考えたとの回答があった。

清水英佑理事長より、今回の混乱の責任は理事長にあることを深く反省している。岡田 WG 委員長の報告を真摯に受け止め、今後の再発防止と改善に結びつける必要がある。個人の責任を糾弾する場ではない。すでに、厚生労働省担当理事は、事案に最も詳しい理事が事案ごとに担当することになっている。一方、委員会報告は委員長の判断で機関誌に掲載してもよいという内規になっているが、すでに労働衛生関連法制度検討委員会から厚生労働大臣宛の要望書として「50人未満の小企業における労働衛生管理に係わる法制度等に関する提案について」が提出されている。しかし、内容には事実誤認や、すでに法制化されているにもかかわらず法制化を求めたり、古いデータで議論しているなど、学会として資質が問われるような報告書が提出されており、理事会で検討もなく自由に掲載されることに対して問題である。内規の見直しの必要があるとの意見が述べられた。

大前和幸次期理事長より、今回厚生労働大臣宛要望書提出が初めての経験であったこともあり、いろいろなミスが重なり、今回の混乱を招いた。委員会規程・部会規程を改訂し、委員会・部会の見解を機関誌に掲載しやすくする等の改善が進んだが、全体としての整合性は法人制度改革のなかで見直す。また、法人制度改革については、定款をはじめとする関係する規約類等を来年の総会で提案し承認されないと、期限内（平成 20 年 12 月 1 日から 5 年以内）に作業を完了することができなくなる恐れがある。代議員の方には理事会決定等を学会のインターネットで流すので、未登録の代議員はインターネット登録をお願いしたいとの協力要請があった。

その他、質問や異議はなく、第 14 号議案は原案通り可決された。

その他、意見・提案はなく閉会となった。

産業医部会 平成 21 年度事業計画

1. 研修事業の充実

1) 産業医プロフェッショナルコース

第 14 回

平成 22 年 1 月（二日間） 横浜市開催

2) 産業医フォーラム

第 8 回

平成 21 年 5 月 22 日（金） 福岡市開催

3) 部会主催研修会

4) 各地方会にて研修会開催

2. 広報活動の推進

3. 研究支援の強化

産業医部会（ポスター）優秀賞授与

4. 第 19 回産業医・産業看護全国協議会の開催

平成 21 年 11 月 5 日（木）～ 8 日（日）秋田市開催

5. 他部会、医師会並びに諸団体との連携強化

1) 四部会合同セミナー

平成 21 年 11 月 秋田市開催

2) 四部会合同企画 リレーワークショップ

平成 21 年 11 月 秋田市開催

3) 健康スポーツ医・産業医 合同研修会

平成 21 年 6 月 大阪市開催

6. 部会報の発行

年 3 回（3 月・7 月・11 月）

7. 幹事会の開催

年 4 回

8. その他必要な事項

産業医部会 平成 20 年度事業報告

1. 研修事業の充実

1) 産業医プロフェッショナルコース

第 13 回

日 程：平成 21 年 1 月 17 日（土）、18 日（日） 横浜市開催

会 場：オンワード総合研究所 人材開発センター

研修テーマ

I：組織心理学の職場への応用

1 月 17 日 13：00～18：30

(1) メンタル不調のアセスメントと対応

田中克俊（北里大）

(2) グループワーク

1 月 18 日 8：45～12：00

(1) 組織心理学の職場への応用

田中克俊（北里大）

(2) フェアマネージメント教育の実践

田中克俊（北里大）

II：現場に役立つ疫学セミナー

1 月 17 日 13：00～18：30

(1) 産業医と疫学（総論） 野見山哲生（信州大）

(2) 方法論としての疫学（各論） 野見山哲生（信州大）

藤野善久（産業医大）

(3) クリティカルビュー 寶珠山務（産業医大）

(4) グループワーク

1 月 18 日 8：45～12：00

(1) グループワーク（続き）／発表準備

(2) 発表およびレビュー 野見山哲生（信州大）

2) 産業医フォーラム

第 7 回

日 程：平成 20 年 6 月 27 日（金） 札幌市開催

テーマ：医学教育での産業医活動；後継者養成

司 会：三好裕司（明治安田生命健康保険組合東京診療所長）
佐藤広和（JR札幌鉄道病院保健管理部医学適性科
主任医長）

パネリスト：

- (1) 医育機関における産業医教育
堀江正知（産業医科大学産業生態科学研究所教授）
- (2) 北海道医師会における産業医研修事業
小山 司（北海道医師会常任理事産業保健部長）
- (3) 後継者養成：地方の（製造業）産業医が抱える課題の
一例
倉田千弘（ヤマハ健康管理センター所長）
- (4) 生活者として労働者に対する産業保健活動の展開
埋忠洋一（(株)TIS主任産業医）

3) 各地方会にて研修会開催

イ. 北海道地方会

- (1) 第10回産業医・産業看護・産業衛生技術合同研修会
開催日：平成20年3月1日（土）
会 場：北海道大学学術交流会館小講堂
講演1：今後の産業保健推進上の課題について
加藤峰英（北海道産業保健推進センター副所
長）
講演2：メンタル疾患への産業医としての対応
小林麻美（パナソニックエレクトロニックデ
バイス北海道(株) 産業医）
講演3：ワークライフバランスと産業医活動
佐藤広和（JR札幌鉄道病院保健管理部医学
適性科主任医長）
- (2) 第11回産業医・産業看護・産業衛生技術合同研修会
開催日：平成20年10月11日（土）
会 場：札幌市医師会館大ホール
講演1：作業関連疾患としての生活習慣病，メタボリック
症候群
西条泰明（旭川医科大学）
講演2：職場と家庭をつなぐ健康づくり—運動と食事—
武田秀勝（札幌医科大学）
講演3：メンタルヘルスケア—職場における一次予防の
取り組み—
森田哲也（(株)リコー統括産業医）

(3) 事例検討会

- 開催日：平成21年2月16日（月）
会 場：札幌市医師会館大ホール
基調講演：リワーク（復職支援）デイケアについて
横山太範（さっぽろ駅前クリニック，札幌学
院大学）
グループ討論：職場のメンタルヘルスの事後措置
松原良次（札幌花園病院）他9名

ロ. 東北地方会

- (1) 第67回東北地方会
開催日：平成20年7月25日（金）
学会長：中路重之（弘前大学大学院医学系研究科社会学講

座教授）

- 事業場見学：東北新幹線青森駅舎工事事業所
(2) 第12回産業医協議会・産業医部会総会
開催日：平成20年7月25日（金）
講 演：青函トンネル工事における衛生管理について—聴
力像の経年変化を中心に—
講 師：丸山宏洋（青森産業保健推進センター相談員・医
療法人八重田医院理事長）

ハ. 関東地方会

- (1) 関東産業医部会産業医研修会
共 催：慈恵医師会・東京都医師会
開催日：平成21年1月24日（土）
会 場：東京慈恵医科大学 大学1号館5階講堂
演題1：産業保健における栄養指導（EB Nutrition の立
場から）
佐々木敏（東京大学大学院医学系研究科公共
健康医学専攻社会予防疫学分野教
授）
演題2：特定健診・特定保健指導と産業保健；法規に基
く産業保健現場での状況
竹田 透（労働衛生コンサルタント事務所オ
ークス）
演題3：交通機関における睡眠対策；睡眠時無呼吸症候
群のスクリーニング検査と眠気予防のための睡
眠教育
柿沼 充（東日本旅客鉄道(株) JR東日本健
康推進センター）
演題4：EBNに基づく簡易型自記式食事歴法質問票
（BDHQ）を使った保健指導
佐々木敏（東京大学大学院医学系研究科公共
健康医学専攻社会予防疫学分野教
授）
演題5：内科医のためのメンタルヘルス（PIPC）産業
保健への活用
福本正勝（航空医学研究センター部長）
- (2) 第6回海外勤務者健康管理研修会
主 催：海外勤務者健康管理全国協議会
共 催：日本産業衛生学会関東産業医部会・東京産業保健
推進センター
開催日：平成21年2月14日（土）
会 場：大手町サンスカイルームE室
基調講演：中国赴任の新型インフルエンザ対策
演者：勝田吉彰（近畿医療福祉大学教授）
座長：三好裕司（明治安田生命健康保険組合東京診療
所長）
シンポジウム：東アジア・東南アジアにおける海外勤務
者の健康管理 特新型インフルエンザ
等の感染症への対応
演者：古閑比斗志（横浜検疫所医師）
金川修造（国立国際医療センター渡航者健康管
理室長）

彌富美奈子 (SUMCO 伊万里事業所統括産業医)
 座長：福本正勝 (航空医学研究センター部長)
 久保田昌詞 (大阪労災病院勤労者予防医療センター部長)

ニ. 北陸甲信越地方会

開催なし

ホ. 東海地方会

第4回東海地方会産業医部会懇話会

開催日：平成20年5月24日 (土)

会場：(財)愛知健康増進財団

テーマ：復職が継続できている「適応障害」例

症例1：永田源一郎 (アイシン・エイ・ダブリュ)

症例2：松田 元 (四日市松下電工)

症例3：石川貴之 (トヨタ自動車)

教育講演：鈴木安名 (労働科学研究所)

ヘ. 近畿地方会

(1) 第13回近畿産業医部会研修会

開催日：平成20年10月4日 (土)

会場：大阪市立大学医学部学舎4階大講義室

実行委員長：久保田昌詞 (大阪労災病院勤労者予防医療センター部長)

メインテーマ：新型インフルエンザ

基調講演：新型インフルエンザの脅威と経鼻ワクチン開発—産業・社会崩壊を防ぐために—

講師：長谷川秀樹 (国立感染症研究所感染病理部第2室長)

座長：佐野 敦 (パナソニックエレクトロニクス(株)健康管理室長)

シンポジウム：新型インフルエンザのパンデミックに備えて—事業所における対策—

演者：木村正儀 (住友商事(株)診療所長)

全 羽 (パナソニック健康保険組合健康管理センター室長)

長田芳成 (関西電力(株)人材活性化室安全衛生グループチーフマネージャー)

川村尚久 (大阪労災病院小児科部長・ICTリーダー)

座長：瀧本忠司 (ダイハツ保健センター長代行)

久保田昌詞 (大阪労災病院勤労者予防医療センター部長)

(2) ケースカンファレンス研修会

開催日：平成20年度 計15回開催 (参加人数256名)

会場：大阪産業保健推進センター, 他

内容：産業医職場診断 (5回), 職場巡視 (5回), メンタルヘルスケア (5回)

共 催：大阪府医師会, 大阪産業保健推進センター

ト. 中国地方会

第52回中国四国合同産業衛生学会 産業医部会研修会

開催日：平成20年11月22日 (土)

会場：鳥根県民会館

コーディネータ：春木宥子 (松江記念病院)

吉積宏治 (吉積労働衛生コンサルタント事務所)

1. 職場巡視の事例 (パレット積み込み作業および運搬作業の負担軽減対策について)

宇土 博 (広島文教女子大学)

2. レーザー機器使用職場における職場巡視事例

昇淳一郎 (パナソニック四国エレクトロニクス(株)松山地区健康管理室)

3. シンポジウム

基調講演「企業における健康づくり活動の展開～衛生管理者の活用と嘱託産業医の連携」

小出勲夫 (IK安全サポート代表)

演題1：衛生管理者への期待—職場における衛生管理者の果たす役割と産業医との連携—

吉積宏治 (吉積労働衛生コンサルタント事務所)

演題2：元気職場づくり支援ツールによる健康づくり活動の展開

斉藤照代 (東京労災病院勤労者予防医療センター)

演題3：企業における健康づくり活動の展開—衛生管理者の活用と嘱託産業医の連携—

松本祐二 (松本医院)

演題4：当社における嘱託産業医との連携状況

南波美和子 (パナソニックモータエクスパート(株)情報モータディビジョン健康管理室)

チ. 四国地方会

(1) 産業医部会研修会 (第52回中国四国合同産業衛生学会時に中国産業医部会と共催)

開催日：平成20年11月22日 (土) 14:00～17:00

場所：鳥根県民会館 中ホール

テーマ：職場巡視事例の事例

事例1：パレット積み込み作業および運搬作業の負担軽減対策について

宇土 博 (広島文教女子大学)

事例2：レーザー機器使用職場における職場巡視事例

昇淳一郎 (パナソニック四国エレクトロニクス(株)松山地区健康管理室)

(2) 第1回四国産業医部会研修会

開催日：平成21年3月28日 (土) (平成21年2月28日より日程変更)

場所：香川県医師会館3階大会議室

主 催：四国産業医部会

共 催：香川県医師会

参加費：3,000円

座 長：大原啓志 (高知産業保健推進センター所長)

氏家陸夫 (氏家労働衛生コンサルタント所長)

事例1：高温暑熱環境改善事例の検討

竹崎雅之 (大王製紙健康保険組合)

事例2：安全衛生委員会の分類とその対応

昇淳一郎 (パナソニック四国エレクトロニクス
(株) 松山地区)

リ. 九州地方会

平成 20 年度健康管理研究会 (九州地方会産業医部会主催)

開催日: 平成 20 年 12 月 13 日 (土)

会 場: 福岡交通センター 8 階大ホール

座 長: 市場正良 (佐賀大学医学部)

講演 1: 事業場における特定健診・保健指導モデル事業の
展開

山本華代 (福岡労働研究所)

講演 2: 職域における特定保健指導について

松田晋哉 (産業医科大学公衆衛生学)

4) 産業医部会活動アンケート調査の実施

平成 20 年 10 月

2. 広報活動の推進

1) 日本医事新報に「step up 産業医」連載

2) 産業衛生学雑誌に「事業場における新型インフルエンザ対策への提言— (社) 日本産業衛生学会産業医部会の立場より—」を掲載

3. 研究支援の強化

産業医部会 (ポスター) 優秀賞授与

受賞者: 上原正道氏 (ブラザー工業(株))

4. 第 18 回産業医・産業看護全国協議会の開催

開催日: 平成 20 年 11 月 27 日 (木) ~ 29 日 (土)

会 場: 松山市総合コミュニティセンター (愛媛県松山市)

特別講演: 社会人基礎力を基盤とした青壮年労働者の活力創
出

座長: 實成文彦 (香川大学大学院教授)

演者: 諏訪康雄 (法政大学大学院教授)

メインシンポジウム: 青壮年期労働者の活力創出

座長: 永田頌史 (産業医科大学産業生態科学研究所教授)

演者: 井上幸紀 (大阪市立大学大学院准教授)

島津明人 (東京大学大学院准教授)

渡辺直登 (慶応義塾大学大学院教授)

特定健診特定保健指導シリーズシンポジウム

基調講演: 職域における特定保健指導の実践

座長: 氏家睦夫 (氏家労働衛生コンサルタント事務所長)

演者: 須賀万智 (聖マリアンナ医科大学准教授)

I: 壮年期労働者 (主に 40 歳代) を対象とした特定健
診・特定保健指導の課題

座長: 浦野澄郎 (パナソニック健保健康管理センター所
長)

大脇多美代 (大阪産業保健推進センター相談員)

演者: 岩田全充 (トヨタ自動車(株) 統括産業医)

中山邦夫 (大阪大学大学院講師)

住徳松子 (アサヒビール(株) 保健師)

II: 中年期労働者 (主に 50 歳代) を対象とした特定健
診・特定保健指導の課題

座長: 三好裕司 (明治安田生命健保東京診療所長)

五十嵐千代 (富士電機リテイルシステムズ(株)
副室長)

演者: 井上和男 (東京大学大学院准教授)

宮本俊明 (新日本製鐵(株) 主任医長)

柴戸美奈 (九州産業衛生協会課長)

過重労働防止対策シリーズシンポジウム I:

脳心臓疾患による労働災害防止対策

座長: 大原啓志 (高知産業保健推進センター所長)

車谷典男 (奈良県立医科大学教授)

演者: 堀江正知 (産業医科大学産業生態科学研究所教授)

岩崎健二 (労働安全衛生総合研究所部長)

過重労働防止対策シリーズシンポジウム II:

精神障害等による労働災害防止対策

座長: 車谷典男 (奈良県立医科大学教授)

大原啓志 (高知産業保健推進センター所長)

演者: 川上憲人 (東京大学大学院教授)

小林祐一 (HOYA グループ総括産業医)

教育講演 I:

うつ病の脳の働きを知る—よりよい職場復帰にむけて—

座長: 加藤匡宏 (愛媛大学教育実践総合センター准教授)

演者: 岡本泰昌 (広島大学大学院講師)

教育講演 II: 生物学的モニタリングの国内事情と将来展望

座長: 芳原達也 (山口大学大学院教授)

演者: 川本俊弘 (産業医科大学教授)

教育講演 III:

健康増進・安全向上を目指した睡眠時無呼吸症候群スクリー
ニングへの取組

座長: 山田誠二 (パナソニック健保産業衛生科学センタ
ー所長)

演者: 谷川 武 (愛媛大学大学院教授)

ランチョンセミナー I:

ダイズの生理機能とメタボリックシンドローム

座長: 加藤匡宏 (愛媛大学教育実践総合センター准教授)

演者: 奥 恒行 (長崎県立大学副学長)

ランチョンセミナー II:

企業における新型インフルエンザ対策

座長: 岡田 章 (新大阪健診クリニック理事長)

演者: 鈴木 宏 (新潟大学大学院教授)

ランチョンセミナー III:

ストップ! NO 卒中—ステージに応じた脳卒中予防—

座長: 加藤匡宏 (愛媛大学教育実践総合センター准教授)

演者: 橋本洋一郎 (熊本市市民病院部長)

産業医特別研修会

じん肺エックス線写真読影の実践:

菅沼成文 (高知大学教授)

内科医が教える内科医のための精神疾患の診かた:

福本正勝 (航空医学研究センター部長)

第 11 次労働災害防止計画と CSR:

藤代一也 (九州電力(株) 統括産業医)

実地研修: (株) えひめ飲料松山工場

JA 西宇和みかん選果場

四国電力(株) 原子力保安研修所

四国乳業(株) 本社工場

(株)よんやく物流センター

5. 他部会, 医師会並びに諸団体との連携強化
- 1) 四部会合同セミナー
平成 20 年 11 月 27 日 (木) 松山市開催
テーマ: みかん摘果作業の「頸肩腕症候群」予防のための
はさみの改良と残留農薬
 - 2) 四部会合同企画 リレーワークショップ
平成 20 年 11 月 28 日 (金) 松山市開催
テーマ: 働く人の健康 (元気) を生み出す組織 (職場) づ
くり V 一職階の問題点一
 - 3) 健康スポーツ医・産業医 合同研修会
平成 20 年 6 月 21 日 (土) 大阪市開催
テーマ: 特定健診・保健指導の実務
演題 1: 栄養指導における産業医・健康スポーツ医のかか
わり方
小西すず (武庫川女子大学生活環境学部准教授)
演題 2: モチベーションを高めるためには
井上幸紀 (大阪市立大学大学院准教授)
 - 4) 四部会合同幹事会
平成 20 年 11 月 27 日 (木) 松山市開催
 - 5) 四部会コラボレーション委員会
第 1 回 平成 20 年 6 月 24 日 (木) 札幌市開催
第 2 回 平成 20 年 11 月 27 日 (木) 松山市開催
6. 部会報の発刊
第 33 号 (平成 20 年 3 月 15 日)
第 34 号 (平成 20 年 8 月 15 日)
第 35 号 (平成 20 年 11 月 20 日)
7. 幹事会
第 1 回 平成 20 年 6 月 24 日 (木) 札幌市開催
第 2 回 平成 19 年 8 月 22 日 (金) 東京都開催
第 3 回 平成 20 年 11 月 27 日 (金) 松山市開催
第 4 回 平成 21 年 1 月 9 日 (金) 東京都開催

産業医部会 平成 20 年度会計報告

総務担当幹事 昇 淳一郎

【収入の部】

平成 19 年度より繰越金	2,705,561
日本産業衛生学会より	1,000,000
部会通信連絡費 (平成 19 年度)	1,622,000
労働衛生会館より	200,000
参加登録費収入 (産業医部会・健康スポーツ医学委員会合同研修会収 益金および産業医プロフェSSIONALコース参加費)	1,240,400
利息	1,767
雑収入	300,000
計	7,069,728

【支出の部】

機関誌印刷費	507,128
研究会助成金	1,426,852
例会諸謝金	72,000
幹事会費	948,115
広報渉外費	293,633
事務局員費	100,000
通信費	525
消耗品費	179,550
雑費	11,932
計	3,539,735

次年度繰越金	¥3,529,993-
--------	-------------

(平成 21 年 2 月 28 日)

平成 21 年度第 1 回専門医制度委員会議事録

日 時: 平成 21 年 7 月 11 日 (土) 12 時 30 分 ~ 16 時

場 所: 東京八重洲ホール 新第一ビル

出席者: 委員長: 山田誠二

委員 (五十音順): 石竹達也, 杉本寛治, 広瀬俊雄,
宮下和久, 武藤孝司, 森 晃爾 (事務局)

顧問: 大久保利晃

オブザーバー: 東 敏昭 (学会担当理事)

I. 報告事項

1. 指導医・専門医・研修医登録状況について
事務局より, 平成 21 年 7 月 1 日現在の専門医数 (指導医
254 名, 専門医 143 名) について報告があった。
2. 日本専門医制評価・認定機構について
平成 20 年度第 2 回社員総会 (2 月 18 日開催), 平成 21 年
度第 1 回協議委員会 (5 月 8 日開催) および平成 21 年度第 1
回社員総会 (5 月 27 日開催) について報告があった。
3. 平成 20 年度 指導医・研修医アンケート集計結果について
事務局より, 平成 20 年度に行った指導医および研修医向
けのアンケート結果について報告があった。
4. 第 82 回日本産業衛生学会「専門医制度シンポジウム」に
ついて
本専門医制度に関連する企画として, 「これからの日本産
業衛生学会専門医制度のあり方」シンポジウムが実施され
たことが報告された。
5. Occupational Health Advanced Course Seminar (OHAS)
2009 研修会について
平成 21 年 7 月 4 日, 5 日に開催された OHAS の実施報告
があった。専門医試験でのコンピュータ (PC) の導入に向
け, 課題発表に PC を用いるテストを行った。
6. 平成 21 年度 専門医資格認定試験方法について
筆記試験部会および口頭試験部会とも, 準備が順調に進
んでいるとの報告があった。
7. 専門医制度の名簿使用について
研究目的の名簿の使用の申請があり, 委員長の了承のも

と、学会理事長が使用を許可したことが報告された。

8. 平成 21 年度の専門医認定証授与式

平成 21 年度の専門医認定証授与式は、11 月 7 日（土）16：30～17：00 に、第 19 回産業界・産業看護全国協議会（秋田）の会場において実施することが確認された。

II. 審議事項

1. 指導医資格更新の可否について

- (1) 「経過措置による指導医」第 4 期の 3 回目更新対象者 10 名のうち、7 名の更新と 2 名の更新辞退を承認した。また、1 名の未申請者については、再度意思確認を行うことになった。
- (2) 「専門医から指導医」第 6 期の更新対象者のうち、保留扱いになっていた 2 名について、更新を承認した。
- (3) 「専門医から指導医」第 8 期の 1 回目更新対象者 9 名の更新を承認した。
- (4) 「特別措置による指導医」第 2 期の 1 回目の更新対象者 2 名のうち、1 名の更新を承認した。また、未申請の 1 名については意思確認を行うことになった。

2. 専門医資格更新の可否について

- (1) 「専門医」第 7 期の 2 回目更新対象者 2 名のうち、1 名の指導医への移行を承認した。また、未申請の 1 名については意思確認を行うことになった。
- (2) 「専門医」第 12 期の 20 名のうち、17 名の指導医への移行および 2 名の専門医の更新および 1 名の 1 年間の猶予措置を承認した。

3. 平成 21 年度 専門医試験受験資格の認定について

平成 21 年度専門医試験受験申請者 40 名のうち、すでに資格認定がされている 2 名を除く 38 名の受験資格の認定を承認した。

4. 平成 21 年度 専門医試験実施細目および実施体制について

平成 21 年度専門医資格認定試験の実施について、グループ分け、口頭試験の試験官の組合せ、試験実施要領、受験予定者向けの受験案内、筆記試験部会委員および口頭試験部会委員向けスケジュールを承認した。

5. 専門医資格認定試験受験資格要件（学会会員歴）について

専門医制度における研修期間中に病気療養のため学会を一度脱退していた会員の空白の期間の取扱いについて審議を行い、受験資格において会員歴の空白期間を問わないことを承認した。

6. 産衛学会専門医制度のあり方について

- (1) 日本専門医制評価・認定機構から今後各学会に求められる可能性がある研修施設の要件について、事務局原案に基づき議論を行い、原案を一部修正して 2 次案として、今後引き続き検討することとなった。
- (2) 専門医制度の在り方について、学会シンポジウムでの論点を整理して事務局原案に基づき議論を行った。今後引き続き検討することとなった。

7. 次期専門医制度委員、筆記試験委員、口頭試験委員について

次期委員候補について議論を行い、次回委員会で再度検

討した結果を受けて理事会に推薦し、承認を得ることになった。

8. 専門医試験での PC の使用について

課題発表時の PC の使用について、来年度からの導入を目指して、インターネットへのアクセスの禁止等の実施ルールを検討することになった。

9. 次回委員会開催日について

8 月 23 日（日）16 時～17 時 30 分にオンワード総合研究所で開催することになった。

国際産業保健学会（ICOH）会長からの メッセージ

この記事は、ICOH ニュースレター第 7 巻、1 号（2009 年 6 月）に載せられたものの和訳です。ICOH ニュースレターの全文はバックナンバーも含め ICOH ホームページ（<http://www.icohweb.org/>）で閲覧することができます。

ICOH 会員のみなさま

ケープタウンで開催された 3 年ごとの大会の ICOH 2009 でみられた大きな進展は、たしかに心強いものでした。進展が著しかったのは、多様化する職場ニーズへの対応、リスクアセスメント方法、格差を解消する各種プログラムです。

ICOH の活動に対する信頼を示してくださった会員の方々に感謝しています。この信頼は、大会に報告された諸活動と今年行われた選挙において明らかでした。新しい理事と役員は、ケープタウンで開かれた理事会において、世界中で産業保健分野の研究と実践を向上させるという私たちの共通目標に向け、さらに ICOH 活動とそのネットワークを発展させていくことに一致しました。この共通目標を達成するために、ICOH の長所をさらに強化すると同時に、共同行動のあり方を改善していく必要があります。

ICOH の長所はどこでしょうか？

ICOH の長所は、ますます多様化する就労の場で充実した産業保健を実践する取り組みを統一して行っていける点と、国際組織および諸ネットワークと緊密に連携していける点にあります。その長所を示すよい一例が、問題解決方式の職場リスク評価・制御に関する研究ネットワークです。この長所は、労働者の健康問題を利害関係者とともに取り上げる ICOH 会員の長年にわたる経験に根ざすものです。

もう一つ大切な長所は、経済開発と関連づけて産業保健を向上させていく上で重要な役割を果たしている点にあります。とりわけ、開発途上国におけるサービスの行きとどかない諸セクターでの労働条件・環境の改善のための実際的なツールの提供に努めています。ICOH の 2 本柱である科学委員会と各国幹事によるネットワークがこのいずれの側面でも共同行動に重要な役割を果たしています。

ケープタウン大会では、筋骨格系障害、呼吸器疾患、心理社

会要因などと並んで神経毒作用, アレルギー, 生殖障害, 感染症のような新規リスクによる健康障害のアセスメントと予防について, 大きな進展がみられました。

さらに特に重視されたのが, 健康増進モデル, コントロールバンディングなどを含む一次予防のためのツール, 参加型トレーニングパッケージ, 職場サーベイランスシステムなどの問題解決方式のツールの提供でした。産業保健専門職の倫理にも引き続き力点がおかれていたことが, 私たちの行う貢献の強い基盤となっています。

同じように進展がみられたのが, 小企業, 農業, インフォーマル経済の労働者, 開発途上国の多様な職場の労働者の健康保護策です。途上国から約 100 人の参加者を ICOH が助成したことも, サービスの行きとどかない職場における緊急課題と対策指向取り組みの討議に役立ちました。

ICOH の活動計画の力点

ケープタウン大会会期中に 2 回開催された ICOH 総会では, 2009-2012 年期の活動計画の実施に際して具体的な進歩を遂げる必要が強く感じられました。

行動計画の力点は, (a) 労働の場における問題解決方式のリスクアセスメントと予防策の進展, (b) すべての国における全労働者への産業保健サービスの提供, (c) 現場で使える対策指向ツールキットの開発, (d) 世界各国におよぶ ICOH ネットワークの強化の 4 点におかれています。

このいずれの領域でも, とくに科学委員会を通して, 職場リスクアセスメントとリスク低減策のための対策指向型の手順を開発することが必要です。伝統的な健康リスクに対しても, 新規の健康リスクに対しても, 応用可能な手順を確立することが必要です。喜ばしいことに, 指針や活動モデル, ツールキットが科学委員会や各国ないし地域グループによって開発されており, さまざまな労働現場で応用されつつあります。

種々の困難な条件下での労働者の健康への取り組みに向けて, 基礎的産業保健サービス (BOHS) と健康職場推進プログラムを含む新しいアプローチが, ILO と WHO の積極的支援をえながら, 新しい枠組みをもたらしています。ケープタウン大会の多くのセッションで討議の中心になったのが, グローバルな経済危機のもとにおける新規および伝統的問題点に取り組む上でどういう方策が効果的かでした。

ICOH に必要な改善点はなにでしょうか

これらの進展の討議から明らかになった大切な一教訓は, さまざまな就労状況で応用できる実際的な管理目標と手順とを提示する必要がある点です。健康調査と一次予防手順に関する指針とツールキットを開発するために, 特別の努力を行っていく必要があります。

ケープタウンにおける大会中と理事会における討議で明らかになったように, 実践に役立つ成果を生むスピードを早める必要があります。スピードを要する成果の例として, 産業現場ですぐ使える指針類やツールキット, モデルシステムが挙げられます。また, 安全保健分野の ICOH 活動が広く認知されていくことも大いに必要です。さらに, 会員, とりわけ若年会員を増

やすために一層協調した活動がぜひ必要です。つまり, 具体的な成果を生むためと, 認知度の向上, 会員増加に格段の努力が必要で, 事実, 近年これらの点でよい進展も見られましたが, 制約もあり, それら制約を克服するためにいっそうの協調した努力が望まれます。

2006 年にミラノで創立 100 年を記念したのち, ICOH は, 2 世紀目に入っています。国際ネットワークを活用できる私たちの長所を伸ばし, たしかなインパクトをもたらす成果を出していくために協働するユニークな機会が訪れているのです。そのためには, 一致して協力するだけでなく, 私たちの活動場のそれぞれについて目標を明確に定めて具体的な計画を立てることが欠かせません。

情報交流と諸会議の役割

活動計画についても, また, 得られた成果についても, 科学委員会, ワーキンググループ, プロジェクトチーム間の, また各国幹事を通してのコミュニケーションを促進していきましょう。この目的のために, 新設計の ICOH ウェブサイトを利用した情報交流が大いに役立つでしょう。

各科学委員会の開催する国際会議, 地域会議と国内の諸会議, ICOH 会員集会は, トレーニングプログラム開催時とともに, ICOH 活動計画にそった進展を確認する貴重な場となります。メキシコのモンテレーで開催される ICOH 2012, 韓国ソウルで開催される ICOH 2015 も, ICOH 活動を推進するよい機会となるでしょう。これらの活動と諸会議における進展を報告するコミュニケーションを強化し, ICOH ウェブサイトを通しての交流を促進していきたいと思えます。

会員のみならず多岐にわたる 3 年間とすべての働く人のための産業保健活動のための共同計画における成功とを祈念しています。

国際産業保健学会 (ICOH) 会長
 小木 和孝

平成 21 年度新入会者

[北海道] 武田富美子 [岩手] 柳原博樹 [宮城] 遠藤伯子, 福島直美 [福島] 今野金裕, 武田悠希 [茨城] 川田ゆきこ [埼玉] 稲田仁美, 細井英隆 [千葉] 制野紗央里 [東京] 赤司雅子, 井上浩子, 岡芙久子, 金澤真雄, 近藤美佐子, 鈴木 望, 高田英明, 寺村 孝, 中村 鈴, 東 尚弘, 福中康志, 松川岳久, 渡邊千春 [神奈川] 青木明人, 大野 勉, 翁 祖銓 [新潟] 佐藤智子 [福井] 荒井正雄, 黒田 譲 [岐阜] 加藤 誠 [静岡] 小田切圭一, 丸山 薫 [愛知] 加藤一夫, 越川加奈子, 田所直子 [三重] 浅間信治, 長井 一 [滋賀] 田中康子, 西川幸位 [京都] 小山正美, 米山浩子 [大阪] 池田雅彦, 植田秀樹, 金山周次, 天満望美, 森山和郎 [兵庫] 奥野 優, 落合 剛, 竹内利永子, 谷口裕紀, 富川明代, 若林典子 [鳥根] 宇都宮詩織 [岡山] 井上正子 [広島] 伊藤マリエ [福岡] 齊藤清美, 古村美津代, 渡邊登美子 [佐賀] 熊谷聡子 [宮崎] 國本政瑞中, 竜田庸平

会費納入のお願い

会員各位

平成 21 年度の会費 10,000 円を納入下さいますようお願い致します。
払込通知票は, 51 卷 1 号 (1 月号) に綴じ込みで入っております。
なお, 退会の際は, 文書でご連絡下さい。
「用紙を紛失した方は, 郵便局のブルーの用紙でお願いします」

郵便振替口座 00100 - 7 - 133495
加入者名 社団法人 日本産業衛生学会
日本産業衛生学会事務局

第14回産業医プロフェッショナルコース開催のお知らせ

主催 日本産業衛生学会産業医部会
運営実行委員長 浜口伝博

産業医プロフェッショナルコースは、毎回タイムリーで実用的な内容を提供するため、高い技能を持つ講師陣によって精度管理されています。受講された皆様からは高い評価をいただき、回を重ねるにつれご参加の先生方との強い信頼感も築くことができました。リピーターが多いのも本コースの特徴です。

2009年度コース（開催は2010年）では、メンタルヘルスにおける知識や技能が、人材開発、組織心理、組織介入、にも連鎖し始めているという認識に立ち、コースⅠでは産業医としての「組織介入」の方法論をテーマにしました。また、コースⅡでは、前回の疫学デザイン研修をふまえて、統計学を自在にあやつるための技能習得のニーズが寄せられていることから、実践的でテクニカルな統計処理技術のための基礎的研修としました。

1. 研修テーマ：（2つのコースが同時に運営されます）

コースⅠ：「これからの産業医と組織介入」

コースⅡ：「いまさら聞けない疫学統計学」

2. 開催日：2010年1月23日（土）～24日（日）

3. 会場：

オンワード総合研究所 人材開発センター（両コースとも）

<http://www.onward-kensyu.com/index.html>

（羽田空港より近隣駅までの直行バスがあります）

〒224-0012 神奈川県横浜市都筑区牛久保3-9-3

TEL：045-912-8812 FAX：045-910-1090

4. 内容：

- ・両コースともPCの各自持参が必要です。
- ・両コースともエクセルの使用経験のある（基本操作ができる）方である必要があります。

コースⅠ：「これからの産業医と組織介入」

コーディネーター：田中克俊（北里大）

○第1日目（2010年1月23日（土）13時～18時30分）

1. 組織介入の理論と実践（30分）
2. 組織変数の測定方法（60分）
3. MIRRORの紹介（60分）
4. グループワーク（講義と演習：120分）
5. 実際の介入による期待される効果と課題（30分）

○第2日目（2010年1月24日（日）9時～12時）

6. 介入効果を評価するための統計解析の基本（エクセルを用いた実習を含む）

コースⅡ：「いまさら聞けない疫学統計学」

コーディネーター：寶珠山努（牛深市民病院）

○第1日目（2010年1月23日（土）13時～18時30分）

1. 疫学の基礎「産業医と疫学」（45分）
2. エクセルを用いた統計手法の紹介・方法論（4.5h）

○統計解析の分析例

（どんなときにどんな解析をするか）

単変量解析：t検定、カイ二乗検定、分散分析

二変量解析：相関係数、回帰係数

多変量解析：多変量解析、重回帰分析

3. 課題取り組み

○第2日目（2010年1月24日（日）9時～12時）

4. チュートリアル（9時～10時）
5. 課題の解説（10時～12時）

5. 募集人数：各コース 30名まで

6. 参加費：日本産業衛生学会産業医部会員

20,000円（2日間コース）

日本産業衛生学会会員（医師）

25,000円（2日間コース）

7. 受講修了者には修了証を産業医部会長名にて発行致します。

8. 申込方法等（次ページ「参加申込書」を作成しFAXし

てください）：

- 1) 「コースⅠ：これからの産業医と組織介入」もしくは「コースⅡ：いまさら聞けない疫学統計学」のどちらかのコースを選択

- 2) 資格（産業医部会員の有・無）

- 3) 連絡先を記載：氏名、住所（確定後の資料等の送付先になります）、電話番号／FAX／メールアドレス（どれかをご記載下さい。参加確定時の連絡先となります。）

- 4) 宿泊：希望者は研修会場にて宿泊をすることができます。

・シングル：9,975円税込（夕食代・朝食代ともに含まず）

・ご希望の方は「研修場での宿泊希望（禁煙室希望等もご記載下さい）」をご記載下さい。事務局にて宿泊予約を致します。

- 5) 懇親会（情報交換会）の参加

1日目のプログラム終了後、両コース参加者によるパーティ形式の交流会を行います。参加者、講師、運営スタッフと懇親を深めましょう。

参加ご希望の有無をお知らせ下さい（参加費：5,000円）。

- 6) 申し込み先＜事務局＞

「(株)ヒューマン・リサーチ内 産業医プロフェッショナルコース事務局」

FAX 03-3358-4002

〒160-0011

東京都新宿区若葉2-5-16向井ビル3F

(株)ヒューマン・リサーチ TEL：03-3358-4001

9. 応募の開始と締切

＜応募開始＞（申し込みは先着順とさせていただきますのでご了承ください）

産業医部会員 2009年10月19日（月）9：00から

非部会員（学会員）2009年10月26日（月）9：00から

＜応募締切＞ 2009年11月12日（木）17：00まで

ア) 応募締切後、参加決定者には、後日事務局より受講料振込みについてのお知らせが郵送されます。

イ) お振込みいただく金額は、受講料、懇親会費（希望者のみ）、宿泊代（希望者のみ）となります。

10. 補足

- 1) 産業医プロフェッショナルコースは「産業衛生学会専門医制度委員会」と連携しています。本コースは、専門医研修中の先生方に対する教育コースに認定されておりますので、受講実績につきましては、正式な研修単位（専門医の場合は指導医への認定単位）として認可されます。

- 2) 産業医プロフェッショナルコースは、日本医師会認定産業医単位の発行はしていませんのでご注意ください。

日本産業衛生学会
産業医Pコース事務局行
(FAX : 03-3358-4002)

申込日 月 日

日本産業衛生学会 産業医部会
産業医プロフェッショナルコース参加申込書

コース (どちらかに○)	① コースⅠ : 「これからの産業医と組織介入」 ② コースⅡ : 「いまさら聞けない疫学統計学」
氏名	フリガナ ()
産業医部会員の 有無	① 産業医部会員 (地方会所属) ② 非産業医部会員
連絡先(資料等 の送り先)	(自宅 ・ 勤務先) 〒 - TEL : FAX : e-mail :
懇親会 (情報交換会)	① 参加する ② 参加しない
宿泊希望 (研修会場内)	① 希望する (禁煙室希望 有・無) ② 希望しない
備考 (費用)	1. 医部会員 受講料 20,000 円 一般会員 (医師) 受講料 25,000 円 2. 懇親会 (情報交換会) 5,000 円 (希望者のみ) 3. 宿泊料 (シングル) 9,975 円 (希望者のみ)
連絡事項	

(切り取り)

第 83 回日本産業衛生学会 (第 4 報)

第 83 回日本産業衛生学会 企画運営委員長 日下幸則

1. 会 期：学 会 平成 22 年 5 月 26 日 (水)～28 (金)
特別研修会 平成 22 年 5 月 29 日 (土)
2. 会 場：フェニックス・プラザ (福井市田原 1 丁目 13-6)
福井県国際交流会館 (福井市宝永 3 丁目 1-1)
3. 企画運営委員長：日下幸則 (福井大学医学部 教授)
4. メインテーマ：21 世紀の新しい産業保健
—リスク管理から疾病予防まで—

5. 企画概要 (予定)

鎌田實先生 (諏訪中央病院名誉院長), 小木和孝先生 (ICOH 理事長), 佐藤章夫先生 (山梨医科大学名誉教授) による講演をはじめとして, 新興感染症 (新型インフルエンザ), 化学物質の管理やリスクアセスメント, メンタルヘルス, 人間工学, アジアにおける産業看護, 職業がん疫学など様々な視点に基づいた企画を用意しております。

なお, 第 2 報でご案内しておりました Dr. Yothin Benjawung (AAOH 理事長) による講演は, 先方の都合により中止となりました。

6. 参加登録

学会参加費, 出題費, 懇親会費ならびに特別研修会参加費の事前登録 (お支払い) は, 産業衛生学雑誌本号 (第 51 巻 5 号 9 月号) に綴じ込みの「郵便払込取扱票」をご利用ください。郵便払込取扱票は, 1 人 1 枚の使用に限ります。なお, 本票の追加につきましては, 登録事務局 (ジェイコム) に FAX またはメールにてご請求ください。

①学会参加費 (原則として登録後の返金はいたしませんので, ご注意ください)

事前登録は平成 22 年 2 月 26 日 (金) までとします。ただし, 筆頭発表者は演題申込締切日 (平成 21 年 12 月 17 日 (木)) までにお支払いください。

■学会員

事前登録: 8,000 円 (平成 22 年 2 月 26 日 (金) まで)

当日登録: 10,000 円 (事前登録の締切以降は当日受付でお支払いください)

事前登録をされた方には, 締切後に参加票を郵送いたします。

■非学会員

10,000 円

②出題費

1 題につき 2,000 円

筆頭発表者が必ず学会参加費とともに「郵便払込取扱票」を用いてお支払いください。

③懇親会費 (会員・非会員共通)

事前登録: 8,000 円 (平成 22 年 2 月 26 日 (金) まで)

当日登録: 10,000 円 (事前登録の締切以降は当日受付でお支払いください)

④特別研修会

特別研修会のご案内 (産業衛生学雑誌本号掲載) または第 83 回日本産業衛生学会のホームページ (<http://83sanei.jtbcom.co.jp>) をご覧ください。

7. 演題申込および抄録原稿受付

一般演題の申込および抄録原稿の受付はインターネットにより行います (平成 21 年 11 月 19 日 (木) 開始)。なお, 筆頭発表者は, 必ず, 演題申込締切日 (平成 21 年 12 月 17 日 (木)) までに学会参加費をお支払いください。

①演題申込および抄録原稿受付の締切

平成 21 年 12 月 17 日 (木) 午前 11 時 ※時間厳守

②申込方法

インターネットによるオンライン申込です。第 83 回日本産業衛生学会のホームページ (<http://83sanei.jtbcom.co.jp>) にてご案内いたします。

③発表形式

一般演題は口演発表とポスター発表で行います。申込時にご希望の発表形式を選択してください。なお, 発表形式は

ご希望に添えない場合もございますが, ご了承ください。※口演発表およびポスター発表の形式 (時間, サイズなど) については, 第 83 回日本産業衛生学会のホームページ (<http://83sanei.jtbcom.co.jp>) および産業衛生学雑誌第 51 巻 6 号 11 月号にてご案内いたします。

④一般演題は, 筆頭発表者としては 1 人 1 演題の申込とさせていただきます。

⑤筆頭発表者および全ての共同発表者は, 演題申込の時点で日本産業衛生学会の会員である方に限ります。会員でない方は早急に入会手続きを行ってください。入会手続きについては, 日本産業衛生学会のホームページを御覧いただくか, 下記事務局へご連絡ください。

日本産業衛生学会事務局

〒160-0022 東京都新宿区新宿 1-29-8 公衛ビル内

TEL: 03-3356-1536 FAX: 03-5362-3746

ホームページ: <http://www.sanei.or.jp/>

8. 懇親会

日時: 平成 22 年 5 月 27 日 (木) 18 時より (予定)

会場: ホテルフジタ福井 3 階 天山の間

福井市大手 3 丁目 12-20

(<http://www.hotel-fujita.jp/fukui/>)

9. 研修単位の認定

特別研修会以外に, 日本医師会認定産業医制度による単位認定を申請予定です。

日本産業衛生学会産業看護師: 産業看護職継続教育システム・実力アップコースの単位認定を申請予定です。

10. 委員会, 部会, 研究会等の申込

会期中に委員会, 部会, 研究会等の会場をフェニックス・プラザまたは福井県国際交流会館内に用意いたします。第 83 回日本産業衛生学会のホームページ (<http://83sanei.jtbcom.co.jp>) にて申込方法をご案内します。締切後, 日時の調整をいたしますが, ご希望に添えない場合もございます。

11. 今後のスケジュール概要

演題申込および抄録原稿受付期間: 平成 21 年 11 月 19 日 (木)～平成 21 年 12 月 17 日 (木) 午前 11 時締切

部会・委員会・研究会等申込期間:

平成 21 年 11 月 19 日 (木)～平成 21 年 12 月 17 日 (木)

共催セミナー申込締切: 平成 21 年 12 月 11 日 (金)

機器展示・書籍展示・広告申込締切:

平成 22 年 1 月 8 日 (金)

学会参加・懇親会・特別研修会事前申込締切:

平成 22 年 2 月 26 日 (金)

12. 宿泊

宿泊申込方法については, 第 83 回日本産業衛生学会のホームページ (<http://83sanei.jtbcom.co.jp/>) に掲載いたします。宿泊を希望される方は, ホームページにて詳細をご確認ください。

13. 連絡先

(1) 本部事務局

〒910-1193 福井県吉田郡永平寺町松岡下合月 23-3

福井大学医学部 国際社会医学講座 環境保健学領域内

第 83 回日本産業衛生学会 事務局 (担当: 梅村朋弘)

TEL: 0776-61-8338 FAX: 0776-61-8107

E-mail: sanei@med.u-fukui.ac.jp

(2) 登録事務局 (事務局代行)

〒530-0001 大阪市北区梅田 2 丁目 2-22 ハービス ENT11 階

株式会社ジェイコム コンベンション事業本部内

第 83 回日本産業衛生学会 登録事務局 (担当: 大津安子・山本博樹)

TEL: 06-6348-1391 FAX: 06-6456-4105

E-mail: 83sanei@jtbcom.co.jp

URL: <http://83sanei.jtbcom.co.jp>

第 83 回日本産業衛生学会・特別研修会のご案内（第 1 報）

1. 日 時：平成 22 年 5 月 29 日（土） ※時間未定
2. 会 場：フェニックス・プラザ（福井市田原 1 丁目 13-6）
3. 研修単位の認定
日本医師会認定産業医制度産業医学研修申請予定
日本産業衛生学会産業看護師：産業看護職継続教育システム・実力アップコース申請予定
4. 参加費（事前登録は平成 22 年 2 月 26 日（金）までとします）
 - 日本医師会認定産業医制度産業医学研修単位を必要とする学会員：8,000 円（事前登録）
 - 日本医師会認定産業医制度産業医学研修単位を必要としない学会員：7,000 円（事前登録）
 - 当日登録：10,000 円
 - 非学会員：10,000 円原則として、登録後の返金はいたしませんので、ご注意ください。また、平成 22 年 2 月 26 日（金）をもって郵便振替は終了いたします。
5. 参加申込
産業衛生学雑誌本号（第 51 巻 5 号 9 月号）に綴じ込みの郵便払込取扱票をご利用の上、お振り込みください。郵便払込取扱票は、1 人 1 枚の使用に限ります。なお、本票の追加につきましては、登録事務局（ジェイコム）に FAX またはメールにてご請求ください。通信欄に「特別研修会参加費」の項目がありますので、ご利用ください。平成 22 年 2 月 26 日（金）までに申し込まれた方には、事前登録の締切後に参加票を郵送いたします。非学会員の方で参加を希望される方は、平成 22 年 2 月 26 日（金）までに郵便振替にて登録・支払いを行ってください。口座番号および口座名称は下記の通りです（通信欄に「特別研修会参加申込」と明記してください）。
口座番号：00750 - 8 - 84546
口座名称（加入者名）：第 83 回日本産業衛生学会
6. 事前登録の申込締切：平成 22 年 2 月 26 日（金）
上記締切以降の申込および当日登録のお問い合わせは登録事務局（ジェイコム）へお願いいたします。
7. 登録事務局
〒530-0001 大阪市北区梅田 2 丁目 2-22 ハービス ENT11 階
株式会社ジェイコム コンベンション事業本部内
第 83 回日本産業衛生学会 登録事務局（担当：大津安子・山本博樹）
TEL：06-6348-1391 FAX：06-6456-4105
E-mail：83sanei@jtbcom.co.jp

日本産業ストレス学会研修会

テーマ：職場のメンタルヘルス：最近の傾向と対策
 日時：2009年11月29日（日）10：00～16：10
 場所：明治安田生命ホール（福岡市博多区中洲 5-6-20）

研修プログラム

- ・最近の法改正とそれに対応した産業保健活動の進め方
 講師 織田 進（福岡産業保健推進センター）
- ・メンタルヘルス不調者のスクリーニングおよびストレス調査の留意点
 講師 堤 明純（産業医科大学）
- ・働く女性のメンタルヘルスケア
 講師 渡邊美寿津（愛知医科大学）
- ・症例検討：職場で困る適応障害症例への対応
 講師 齊藤政彦（大同特殊鋼）
 ファシリテーター
 石川浩二（三菱重工業）
 渡邊美寿津（愛知医科大学）
 田原裕之（トヨタ自動車）

認定単位：下記単位を申請中

日本医師会認定産業医制度

基礎研修（後期）3単位・（実地）2単位
 生涯研修（更新）1単位・（専門）2単位・
 （実地）2単位

日本産業衛生学会産業看護職継続教育システム実力アップコース5単位

申込方法：申込書をFAXまたはE-mailで送付後、参加費をお振込みください。

詳細はHP (<http://jajsr.umin.ac.jp/kensyu.html>)
 をご覧下さい。

申込締切：2009年11月16日（月）

申込・問合せ先：

日本産業ストレス学会事務局

〒639-0298 奈良県香芝市関屋 958

大阪樟蔭女子大学心理学部臨床心理学科夏目研究室内

TEL：0745-71-3137（内線565）

FAX：0745-71-3142

E-mail：sangyo-stress@osaka-shoin.ac.jp

平成21年度産業神経・行動学研究会

テーマ：環境と脳・神経

共催：日本衛生学会脳・神経学研究会，日本神経行動毒性研究会

開催日時：2009年12月4日（金）17：00～20：00

会場：順天堂大学医学部9号館2階8番教室（文京区本郷2-1-1）

内容：特別講演

「マンガン中毒の神経画像」

蔚山大学教授・金 良昊（韓国）

「アクリルアミドの健康影響」

産業医科大学教授・伊規須英輝

「有機ヒ素化合物の中樞神経影響」

筑波大学准教授・石井一弘

一般演題（募集中，11月9日まで）

*特別講演は日本医師会認定産業医研修単位あり（基礎後期または生涯専門1.5単位）

申込先：日本産業衛生学会産業神経・行動学研究会事務局

順天堂大学医学部衛生学講座内

〒113-8421 文京区本郷2-1-1

電話：03-5802-1046 FAX：03-3812-1026

ホームページ：<http://onbm.umin.ne.jp/>